宇部日報　2023年〈令和5年〉　9月6日 水曜日

神原中で「ふくしの寺子屋」出前授業

介護職のやりがいや魅力体感

神原中（岡田浩典校長）で5日、「ふくしの寺子屋」出前授業が開かれた。2年生64人が受講し、全国的に不足している介護職のやりがいや魅力を学んだ。

宇部市内の中・高生が介護職の仕事の内容を知ることで、将来の職業選択に生かしてもらおうと、市と県介護福祉士会が連携して2021年度から実施。山陽小野田市の老人ホームに勤務する介護福祉士の安居幸衣（ゆい）さん（26）ら8人が講師を務めた。

講演では、安居さんが普段の業務についてスライドを用いて発表。ナースコール対応、居室内の清掃、見守りなど生活の中で必要な支援を伝えた。

排せつ介助などで大変なときもあるが、高齢者との会話は楽しく「ありがとう」「助かったよ」と感謝の言葉を聞けるとモチベーションのアップにつながると強調。シフト制で平日に休めるため、週末に混雑するレジャー施設も利用しやすいと話した。

実技には車椅子が用意され、2人一組で前輪を持ち上げて段差を乗り越えたり、ブレーキをかけたりしながら、コースを一周。視覚障害者が使用する白杖（はくじょう）の体験では、目を閉じた障害者役の生徒が案内役の肘をつかみ、目的地へと歩いた。

綿部優月さんは「介護は大変というイメージだったけど、話を聞いて身近な職業だと思えるようになった。やりがいも感じられ、将来の選択肢が広がった」と感想を述べた。

今年度は同様の授業を上宇部中と厚東川中、宇部鴻城高でも行う予定。

車椅子を体験する生徒（神原中で）